

愚か者とされる預言者

ホセア書9章

刑罰の日は来た。報いの日は来た。イスラエルはこれを知る。預言者は愚かな者、靈に感じた人は狂った者だ。これはあなたがたの不義が多く、恨みが大きいためである。(7)

バアル礼拝に心を寄せるイスラエルの民衆は、バアル神によつてもたらされた収穫を喜び祝う祭りをを行うために集まっていました。

預言者ホセアはその人々に向かつて神の裁きをストレートに告げました。「刑罰の日は来た。報いの日は来た」。豊かな収穫を喜び祝う祭りをぶち壊すようなホセアの言葉は、民衆の激しい反感を買い、人々はホセアに向かつて「愚か者、狂人！」という怒号を浴びせました。自分の語る言葉が人々から受け入れられず、かえつて愚か者呼ばわりされたなら、たとえ預言者であつても失意を感じることでしょう。それでもなおホセアは自分の姿勢を曲げることはありませんでした。「預言者はわが神の民エフライムの見張人である」(8)。国家が滅亡へと向かつているのを知らされている預言者は、たとえ人々の激しい反感を買おうとも、くじけることなく語り続けなければならないと意を強くしました。人々の耳に心地よく響く言葉を語ることで、愛国心の表れではありません。真実に自らの国を愛するからこそ、国家の偽善を鋭く指摘し、悔い改めを厳しく迫ったのです。

この国に生きていくわたしたちは、たとえ人々から愚か者のように見られようとも、真実に国を愛するゆえに、見張り人としての使命を果たしていきたいと願います。